

## 教育問題研究協議会の記録

No.	年 度	主 題	分 科 会	講 演 会
1	昭和53年	青少年のよりよき家庭環境を作るために、横浜市の行政と学校は更にどんな努力をしていったらよいか。		
2	54年	時代を担う児童生徒の体力、運動の能力をたくましく作り上げていくためにどうした方策を講ずべきか。		
3	55年	「ゆとりある教育」の正しい進め方について。		
4	56年	子どもの暴力・非行防止について我々は、学校教育機関や関係諸団体などどのように連携していったらよいか。		
5	57年	今の子ども達の生活行動を具体的に知り、現在の生活に適応して自己実現を図れるよう、より良い資質態度を育てる方途をさぐる。		
6	58年	子ども達を取りまく複雑な問題に対して、大人たちが責任を感じ、青少年の健全育成の為に何をなすべきか。		
7	59年	自立と連帯の意識を育成するために学校・家庭・地域の抱える問題とその解明はいかにあるべきか。		
8	60年	学校教育や家庭教育の中で、自然や人との触れ合いを通じて、児童・生徒の自立と連帯の意識の高揚を図る指導はどうあったらよいか。		
9	61年	子どもの健全な成長を図るために、家庭・学校・地域の教育力の活性化を推進するためには、どうしたらよいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもの自発性としつけをどのように調和させたらよいか。</li> <li>②生徒の自主規制力を育てるにはどうしたらよいか。</li> <li>③子どもを地域活動に参加させるにはどうしたらよいか。</li> <li>④退職後の健康管理をどのようにしたらよいか。</li> </ul>	
10	62年	子どもの健全育成の為に、家庭・学校・地域の連携を強化して、その教育力を回復するにはどのようにしたらよいか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①過度の学習塾通いに伴う弊害とその対策。</li> <li>②学歴社会の弊害を是正するために、我々の取り組みはどうあったらよいか。</li> <li>③大都市の青少年に自然環境の中での生活や仲間との遊びスポーツ等の機会を増大させる方策。</li> <li>④退職後の人生を生きがいのあるものにする人生設計と再就職するときの大切な心構え。</li> </ul>	
11	63年	子どもを健全に育成するため、いま教師、父母、地域の人々に何を求められているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①増加する登校拒否に歯止めをかけるための方策。</li> <li>②性的刺激の多い環境下における家庭・学校での性教育。</li> <li>③教師の体罰はなぜなくなるのか。</li> <li>④老人に多い病気と予防処置のしかた。</li> </ul>	
12	平成元年	本市の将来を担う子ども達の健全な育成を目指し、新教育課程の実施と当面する問題は何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新教育課程の特質と問題点</li> <li>②豊かな心を育てる指導のあり方</li> <li>③生徒の自立と校則のあり方</li> <li>④高齢人生における健康管理</li> </ul>	
13	2年	本市の特殊性ともいえる国際理解に関する指導と、近々実施されるであろう学校五日制の問題について考え、かつ我々各人の生き方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①高齢者の生涯学習への参加はどうあるべきか。</li> <li>②児童生徒の国際感覚を養う指導のありかた</li> <li>③学校五日制にどう対応するか。</li> <li>④高齢者の健康管理のありかた。</li> </ul>	「私と高校野球」 横浜商業高校（Y校）教諭 古屋文雄氏
14	3年	新学習指導要領が示され、中央教育審議会の答申が発表される機会に教育問題を考え、かつ我々各人の充実した生き方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①熟年者の地域社会参加を考える。</li> <li>②熟年者の食生活を考える。</li> <li>③学校教育における体験学習を考える。</li> <li>④教育改革の背景を考える。</li> </ul>	

15	4年	社会の変化に対応する学校教育と充実した熟年生活。—学校五日制の実施にあたって—	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校五日制の実施に伴う学校経営の諸問題を考える。</li> <li>②学校五日制の中で改めて家庭教育・地域教育を考える。</li> <li>③生きがいを感じる高齢化社会を目指し、生涯学習への参加を考える。</li> <li>④健康な熟年生活と身近な環境問題を考える。</li> </ul>	「あなたの老後のために」 市総合保険医療センター 西丸興一氏
16	5年	社会の変化に伴う学校教育の諸問題と生涯学習者としての自己の心身の充実について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校五日制の実施に伴う学校経営の諸問題を考える。</li> <li>②学校における国際理解教育の現状と問題点について考える。</li> <li>③学校における福祉教育の現状と問題点について考える。</li> <li>④高齢化社会により良く生きるための自己の心身の充実について考える。</li> </ul>	「飛鳥という時代」 日本歴史紀行友の会 代表 風間良雄氏
17	6年	子どもをとりまく環境の変化について考え、あわせて高齢化社会における生きがいについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもたちの心の豊かさを求める学校・家庭・地域の在り方について考える。</li> <li>②国際理解教育とその実践のあり方について考える。</li> <li>③「福祉教育」について学校や家庭のあり方について考える。</li> <li>④高齢化社会における生きがいについて考える。</li> </ul>	「出会い・・吉田松陰・西郷隆盛・坂本龍馬について」 元高校長 追田満夫氏
18	7年	戦後五十年の節目に当たり、情報化・国際化・高齢化等の社会変化に対応する教育の現状、課題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人や自然とのふれあいの中に、いじめの構造を考える。</li> <li>②人間関係の心の触れ合いを大切にし、生命の尊厳を考える。</li> <li>③社会の変化に、心豊かに、生涯にわたって主体的に学ぶことのできる資質の育成を考える。</li> <li>④生涯学ぶことに生きがいを求め、互いに啓発し合うことについて考える。</li> </ul>	「いま、香港から目が離せない」 前ヤオハン顧問 産業能率大学 講師 高林 茂氏
19	8年	活力ある社会を求める中で、子どもを取り巻く環境の変化を考え、教育の現状・問題点を究明し、その対応について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①週五日制の実施に伴う学校・家庭・地域社会のあり方について考える。</li> <li>②生きる力の育成を図り、自他の生命の尊厳を考える。</li> <li>③薬物乱用に関して、青少年の育成について考える。</li> <li>④生涯学ぶことに生きがいを求め、学校と地域社会の連携教育の活性化について考える。</li> </ul>	「手の文化—ニッポン社会・経済発展の謎を解く—」 千葉大学 名誉教授 清水馨八郎氏
20	9年	21世紀に向かって国際都市横浜が益々発展していく中で、主役となる子どもたちと共に市民全体が国際人となることを目指して、広く国際教育の現状を学習し、国際社会で共生していく心の持ちようを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①外国の教科書に日本はどう書かれているか。</li> <li>②今横浜市の学校では国際理解活動は、どのように実施されているか。</li> <li>③在住外国人から見た日本の印象。</li> <li>④在住外国人との「共生」はどうあるべきか。</li> </ul>	「平将門伝説について」 横浜市立桜丘高校 副校長 村上春樹氏
21	10年	社会の活性化を求め、改革が進められる中で基礎・基本の教育の重要性から生きる力を養う教育改革の現状、問題を踏まえ、最近の子どもの非行問題の対策をも考慮しつつ、さらにこれらの諸相を我々の最も至近な課題として、自らの生涯学習や生き甲斐のあるべき姿勢について考える。	<p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①問題を抱えすぎたなかで、今、学校がしなければならないこと。</li> <li>②家庭・学校・地域社会が今、連携・協力しなければならないこと。</li> </ul> <p>いずれも各校種の現役・OBの問題提起・意見発表</p>	「旧戸塚区域の歴史あれこれ」 郷土史研究家 有馬純律氏

22	11年	子どもの生きる力の育成をどう進めたらよいか。	①開かれた学校づくりをどう進めるか。 ②地域社会の教育力をどう高めていったらよいか。 ③地域社会への参加をどう進めていったらよいか。 ④教育実務の経験を持つ我々は地域社会で具体的に何をすべきか。	「生き、活き、高齢社会」 藤沢市民病院 名誉院長 柏木政信氏
23	12年	生きる力をもった子どもの育成をどう進めたらよいか。	①開かれた学校づくりをどう支援したらよいか。 ②子どもが地域社会の中で学び、活動する場作りをどう支援したらよいか。 ③横浜に生きる子どもの国際理解教育をどう支援したらよいか。 ④会員の一人ひとりが持つ教育力を地域社会の中でどう生かしていったらよいか。	「南米パラグアイの教育」 元市養護教育 総合センター 所長 今岡昌恒氏
24	13年	心豊かな人間性や生きる力をもった子どもの育成をどう支援したらよいか	①心豊かな人間性を育むことをめざす教育をどう支援したらよいか。 ②生きる力を育むことをめざす教育をどう支援したらよいか。 ③地域に開かれた特色ある学校づくりをどう支援したらよいか。 ④国際化に対応する学校づくりを通して国際理解教育をどう支援したらよいか。 ⑤会員の生涯学習や生き甲斐を地域社会の中でどう生かしていったらよいか。	「源頼朝と鎌倉」 元小学校長 毛受 正氏
25	14年	前年度と同じ	前年度と同じ	「夢を追いつづけて ーラグビー部の指導」 横浜市教育委員 関東学院大ラグビー部 監督 春口 廣氏
26	15年	新しい時代の生涯学習2003-現場にこそ真実がある-	①「総合的な学習の時間」の展開とサポート ②新しい取り組みの「二学期制」 ③不登校の児童・生徒の支援 ④民間活力と社会貢献	「児童精神医学から見た子どもたち」 横浜市大病院 部長 竹内直樹氏
27	16年	新しい時代の生涯学習はどうあったらよいか	①「まち」と共に歩む学校づくり ②最近の子どもたちの行動について ③民間活力と社会貢献について	「みたとみらいから横浜を考える」 市中央図書館 館長 高井祿郎氏
28	17年	子どもに生きる喜びを～学校・家庭・地域の教育力の向上と連携強化	①守り、育もう、子どもの命を ②すべての子どもに、学ぶ楽しさ、視る喜びを ③地域の教育力で、地域文化の明日の担い手を ④子どもが変わる、遊び・奉仕活動文化活動を	「落語で聞く悪党商法」 消費生活専門相談員 浜遊亭美波こと伊藤紘子氏
29	18年	前年と同じ	前年と同じ	「水の生き物に生かされる」 理学博士 廣崎芳次氏
30	19年	みんなで育てよう、夢のある子どもを～学校・家庭・地域の連携、その時、あなたは何かができますか～	①「子どもたちが安心して生活できる環境を」 安心・安全の環境づくり ②「すべての子どもに、学ぶ喜びを、生き抜く力を」 豊かな学力の実現 ③「社会の変化の中で、たくましく生きる子どもを」 地域の教育力 ④「世界に開かれた横浜の子どもを」 国際化時代、教育の新しい取り組み	「丹沢の自然環境と子どもたち」 NPO法人 丹沢自然保護協会 理事長 中村道也氏
31	20年	前年に同じ	前年に同じ	「・愛・地球博を通じて日本の国際性を考える」 日本赤十字本社 参与 田島 弘氏

32	21年	育もう、時代を拓き未来を創る子どもを～私たちに何が出来るか、私たちはどのような支援を行ったら良いか～	①変化する社会に対応できる横浜の子ども ②自然をいつくしみ、仲間と共に成長する横浜の子ども ③さまざまな触れ合いを通して、心豊かに成長する横浜の子ども ④自己の社会的役割を自覚し、社会貢献のできる横浜の子ども	「横浜サイエンスフロンティア高等学校の概要」 同校校長代理 宮崎 健氏
33	22年	前年に同じ	前年に同じ	「世界の食糧事情と日本」 武蔵野学院大学 講師 稲葉 大策氏
34	23年	育もう「自分らしさ」を創り出す喜びを実感しながら学び続ける横浜の子どもを	①学び続ける力を育てる学校・園 ②学び続ける力を育てる家庭・親・PTA ③学び続ける力を育てる地域社会 ④生きがいを見つめて自ら学び続ける私たち	「認知症を理解し、地域で支えよう」 磯子福祉保健センター 担当係長 他
35	24年	前年に同じ	前年に同じ	「大佛次郎とヨコハマ」 防衛大名誉教授 大仏次郎研究会 顧問 福島行一氏
36	25年	育もう、変わりゆく時代に『生きる力』を培い未来に向かい学び続ける横浜の子どもを～教育の原点に戻り、学校・家庭・地域の連携の中で、私たちに何が出来るか～	①子育て・変わりゆく時代に「生きる力」を培う横浜の子どもを ②学校・変わりゆく時代に「生きる力」を培う横浜の子どもを ③教育・変わりゆく時代に「生きる力」を培う横浜の子どもを ④社会・変わりゆく時代に「生きる力」を培う会員自身の取り組み	「カンボジアの情勢と教育事情」 カンボジア支援協会 理事(元校長)住田平吉氏
37	26年	前年に同じ	前年に同じ	「下岡蓮杖と横浜」 社会科を考える会 会長 田村泰治氏
38	27年	育てよう、様々な教育課題を乗り越え、心豊かな人間性と「たくましく生きぬく力」をもつ横浜の子どもを	①学校が抱える教育課題 ②横浜市の基本計画にそった教育の具体的実践 ③初任研サポーターなどの教育支援 ④私たち会員自身の活動や取り組み	「学校におけるソーシャルワーク」 北部学校教育事務所 ソーシャルワーカー 遠藤建人氏
39	28年	前年に同じ	前年に同じ	「老後の健康寿命をのばすには」 健康担当係長 岡本綾子氏
40	29年	前年に同じ	①学校が抱える教育課題(いじめ、PTA活動) ②18歳選挙権導入・病弱支援学校 ③道徳教育への取り組み ④私たち会員自身の活動や取り組み	「唄とお話“さあ皆さん歌いましょう”」 かながわ指揮者クラブ 顧問 松崎陽治氏
41	30年	前年に同じ	①学校が抱える教育課題(多文化共生・在県外国人生徒) ②肢体不自由特別支援学校・学校・知己・PTAで育てる市場っ子 ③学校図書館教育 ④私たち会員自身の活動や取り組み	「横浜市立学校教職員の働き方改革プラン」 市教委教育政策推進課 主任指導主事 熊切 隆氏
42	令和元年	育もう、「自ら学び、社会とつながり、ともに未来を創る」横浜の子どもを	①学校が抱える教育課題(ドイツ国際交流・地域と共にある学校) ②プログラミング教育・ICTを活用する授業 ③医療的ケア・稲作活動(食育授業) ④私たち会員自身の活動や取り組み	「80歳を過ぎても人生きらきら」 メロウ倶楽部 副会長 若宮正子氏
43	2年	《新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止》	《新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止》	《新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止》